EMD Magazine
Electronics Music Distribution Magazine

【EMD.GR.JP 掲載のニュース】
（2003 年 1 月 9 日～
2003 年 1 月 31 日分）

総務省、12 月末のインターネット利用者数を発表

総務省は、2002 年 12 月末の時点でのインターネット接続サービスの利用者数速報を発表した。

いわゆるブロードバンドの利用者数としては、CATV インターネットが 195.4 万人、DSL が 5,645,728 人、FTTH が 206,189 人となっている。

2002 年 1 年間で見ると、DSL の加入者は前年同月から 3.7 倍と大きく伸びた。一方 CATV インターネットは同じく 65 万増やし 1.5 倍に留まった。FTTH は初めて 20 万を越え、年間で見ると約 20 倍となった。

（1/31）

エプソン、携帯オーディオを漢字表示対応にできるマイコンを開発

セイコーエプソンは、1 チップで漢字表示を実現できる 8 ビットマイクロコンピュータ LSI 『S1C88649』を開発、2003 年 1 月 31 日より本格的に販売を開始すると発表した。

S1C88649 は、日本レコード協会規格 JIS RIS506-1996（11 x 12 ドットサイズフォント JIS 漢字第 1、第 2 水準）のアドレスに準拠した、オリジナルフォントデータを搭載。

併せて非漢字のフォントおよび Music shift JIS フォントも採用。液晶ドライバ 80×16 ドット出力により 6 文字の漢字表現が可能となっている。

2.5μA（32kHz Halt モード）の低消費電流で、携帯オーディオ機器、コードレスフォン、家電リモコンなど小型携帯機器を中心に、多彩な応用製品を見込んでいるとしている。

サンプル価格は、800 円/個（ベアチップの形態）。

（1/30）

東芝、GIGABEAT の Windows Media 9 シリーズ対応を発表

東芝は、デジタルオーディオプレーヤー「GIGABEAT」を Windows Media Player 9 シリーズ日本語版対応のポータブルデバイスとするソフトウェアのダウンロードサービスを 2003 年 3 月 3 日(月)より開始すると発表した。

音楽 CD からの録音、GIGABEAT への転送までを一貫して Windows Media Player 9 シリーズで行えるようになる。

Windows Media Player 9 シリーズの「デバイスへ転送」を利用すると、モバイルディスク内のディレクトリツリーを見ることができ、そこで転送先を選び、Windows Media Player 9 シリーズで管理しているオーディオデータを転送できるようになる。

転送の際に、GIGABEAT 用のオーディオフォーマット（SAT 形式）に自動的に変換され、転送後のファイルはすぐに GIGABEAT で再生できる。

Windows Media Player 9 シリーズで新たに追加されたフォーマット形式のオーディオデータは GIGABEAT で再生できる形式に自動的に変換するが、著作権を保護された WMA ファイルは転送できない。

（1/30）

マイクロソフト、Windows Media 9 シリーズ日本語版を提供開始

マイクロソフトは、次世代デジタルプラットフォーム Microsoft Windows Media 9 シリーズ日本語版を Windows Media Web サイトにて提供開始したと発表した。

Microsoft Windows Media 9 シリーズは以下の製品から構成される、マイクロソフトの新メディアプラットフォーム。

- Windows Media Player 9 シリーズ：デジタルメディアの再生ソフト
- Windows Media エンコーダ 9 シリーズ：デジタルメディアのエンコーディングツール
- Windows Media サービス 9 シリーズ：Windows .NET Server 2003 に実装されている配信サーバー機能（※）
- Windows Media DRM 9 シリーズ：デジタルメディアの著作権保護技術
- Windows Media Audio/Video 9 シリーズ：デジタルメディアの圧縮フォーマット
- Windows Media 9 シリーズ SDK （英語版）：デジタルメディアの開発キット

※Windows .NET Server 2003 製品版は 2003 年内に提供予定

Microsoft Windows Media 9 シリーズでは、ナローバンドからブロードバンドまで、様々なユーザー環境下での再生能力の向上、直感的な操作性や処理能力の向上、HD（High Definition）および 5.1ch による PC ホームシアターを実現する卓越した映像/オーディオ品質を提供する。

（1/29）

東京地裁、音楽ファイル交換サービスは著作権侵害との判断

東京地方裁判所は、インターネットを利用して CD などの音楽ファイルを無料で交換させるサービス「ファイルローグ」の運営者である日本エム・エム・オーとその代表者に対し、著作権侵害の責任を認める判決を下した。

この判決は、JASRAC（社団法人日本音楽著作権協会）が、2002 年 2 月 28 日、同社らを被告としてサービスの停止と 2 億 1 千万円余の損害金の支払を求めて提起した訴訟において、被告日本エム・エム・オーが著作権侵害の主体といえるかどうか、被告らに著作権侵害による損害賠償の責任が認められるかどうかについて判断する中間判決。

この判決が下されたことにより、今後は、差し止めの範囲及び賠償すべき損害金の額について審理されることになる。

判決では、「ファイルローグ」のサービスは、利用者が MP3 ファイルを送信可能化状態にするためのサービスという性質を有しており、同ファイルの自動公衆送信及び送信可能化は、被告会社の管理下において行われており、被告会社はそれにより営業上の利益を受けているとし、被告会社は、自動公衆送信権及び送信可能化権侵害の主体であると認定し

>> come and check out our site . . . http://www.emd.gr.jp/

た。

よって、被告会社と被告松田は、著作権侵害の共同不法行為者として、連帯して著作権侵害による損害賠償の責任を負うとした。

（1/29）

米音楽小売 6 社、デジタル音楽配信のコンソーシアムを設立

Best Buy、Hastings Entertainment、Tower Records、Trans World Entertainment（FYE Stores）、Virgin Entertainment、Wherehouse Music の 6 社は、デジタル音楽配信に向けたコンソーシアム「Echo」を設立したと発表した。

Echo は、小売店とデジタル音楽配信の間のギャップを埋めることを目標とし、6 社が Echo の株式の過半数を保有する。

Echo の創設 6 社はそれぞれに店頭で Echo ブランドを推進する方針。Echo ブランドのデジタルエンターテイメント製品のマーケティングと料金設定は、各社が個別に行なうとしている。

（1/28）

ソニーなど、オーディオ機器に直接音楽配信する企画会社を設立

ケンウッド、パイオニア、シャープ、ソニーの 4 社は、オーディオ機器などにインターネットから音楽を直接配信するサービスの事業を検討するための企画会社、エニーミュージック企画株式会社：サービス名称は「any music（エニーミュージック）」を設立することで合意したと発表した。

「any music」は、著作権管理・配信技術に「OpenMG X」を採用。ネットワークにつながった「any music」対応のホームオーディオ機器に直接配信することにより、デジタル音楽コンテンツを、著作権を保護した形でユーザーに届けることができる。

このサービスにより、ユーザーは家庭内で対応のホームオーディオ機器により簡単な操作で直接、楽曲を試聴・購入し、その場で高音質な音楽を楽しむことができる。

また、ダウンロードされた楽曲をホームオーディオ機器で楽しむだけでなく、Net MD 対応機器やメモリースティック対応機器などの OpenMG 対応ポータブル機器に転送して楽しむこともできるとしている。

オーディオ機器メーカーとしてオンキヨー、デノン、日本ビクター、パイオニア、半導体メーカーとして NEC エレクトロニクス、日立製作所、富士通、三菱電機が賛同を表明している。

エニーミュージックでは「any music サービス検討会」を開始し、レーベル各社に参加を求め、サービス内容を共同で検討していくとしている。

企画会社での検討後、事業会社を設立し、2003 年秋に「any music」サービスの開始を予定している。

（1/23）

JASRAC と RIAJ、電子透かし技術の有効性を共同実証

社団法人日本音楽著作権協会（JASRAC）、社団法人日本レコード協会（RIAJ）は、電子透かし技術の有効性を確認するための実験を実施し、その有効性を実証したと発表した。

実証実験では、市販用 CD 音源に電子透かし情報（ISWC）を埋め込み MP3 ファイルに変換し、それをインターネットに接続された任意のサーバーにアップロードすることでインターネット上に音楽コンテンツの違法利用環境を構築。

それを JASRAC が運用する監視システムに電子透かし検出プログラムを実装してインターネット上にアップロードされている音楽著作物の収集と電子透かし情報の検出を行った。

その結果、監視システムは、電子透かしが埋め込まれた音楽ファイルを一定期間内にもれなく収集し、電子透かしとして埋め込まれた情報を抽出し、楽曲の特定を行うことができた。

電子透かし技術は、IBM、エム研、マークエニー・ジャパン、日本ビクターの 4 社の協力を得て、「テスト参加企業の募集の要綱」に準拠する技術を使用したとしている。

今後、電子透かし技術を利用して音楽コンテンツへの権利者情報が埋め込まれれば、インターネット上で違法利用されている CD 音源や放送コンテンツの発見と侵害物特定のプロセスの効率化が図られることが期待できるとしている。

（1/22）

米 Real、配信サーバーソフトウェアのソースコードを公開

米 RealNetworks は、メディア配信プラットフォームである「Helix DNA Server」のソースコードの公開を発表した。同社のソースコード公開の取り組み「Helix Community」を通じてソフトウェア開発者に配布される。

これはデジタルストリーミングに使用するメディア再生ソフト、コンテンツを電子フォーマットに変換するエンコーディングソフトに続く Helix プラットフォームの 3 番目のソースコード・コンポーネント。

「Helix DNA Server」のソースコードにより、開発者はライブ、オンデマンドのストリーミング、Web コラボレーション、モバイル・メディア配信、インハウスのストリーミングなどに向けた複数フォーマットの製品を構築できるようになる。

対応しているストリーミングフォーマットは、MP3、RealAudio、RealVideo。MPEG-4 システムのライセンス条件がリリースされた後に、MPEG-4 のサポートが追加される予定。

動作環境は AIX、HP-UX、Tru64、FreeBSD、Linux、Solaris、Windows NT、Windows 2000。

（1/22）

米 Microsoft、著作権保護技術を含む CD/DVD 作成ツールを発表

米 Microsoft は、パソコンでの再生を想定した CD/DVD コンテンツ作成ツール・キット

「Windows Media Data Session Toolkit」を発表した。

Windows Media Data Session Toolkit は、技術パートナーの米 SunnComm Technologies および仏 MPO International Group と共同開発された Windows Media 9 の CD および DVD 作成用のコンポーネント。

通常のセッションのほかに、Windows Media でエンコードされたコンテンツを収録するセカンドセッションを作成できる。セカンドセッションのコンテンツは、パソコン上でのみ再生が可能で、著作権保護技術「Windows Media Digital Rights Management」で管理される。

また「コピーを無制限に許可」、「ポータブル機器への転送を許可」など、コンテンツホルダーによる詳細な制御が行なえる。さらに、ボーナストラック、ライナーノーツ、5.1ch サウンドなどもセカンドセッションに収録することもできる。

Universal、EMI といったレコード会社大手から賛同を得ており、仏の大手プレスメーカー、MPO International Group がすでに導入済みとしている。

（1/21）

米 Macrovision、音楽 CD 向け著作権保護技術「CDS-300」を発表

米 Macrovision は、音楽 CD 向けにマルチレベルでの著作権保護と著作権管理を実現する技術「CDS-300」を 2003 年第 1 四半期に提供開始すると発表した。

CDS-300 は、同社がイスラエル Midbar の買収後、Midbar の技術と自社技術と初めて組み合わせた音楽 CD 用のコピープロテクション技術。パソコンの HDD へのコピーが可能となっている。

ユーザーは CDS-300 を適用した音楽 CD を Windows Media Player 上で再生が可能で、そのままプレイリストに加えることで HDD にコピーすることができる。ただし、ネット上で配布したりメールで送ったりしても再生はできない。

レッドブックに準拠したオーディオセッションへのアクセスは制限しながら、音質も向上させたとしている。

また、インターネット接続や何のプラグインも必要ないことが特徴となっている。

（1/20）

米 SONICblue、財務改善に身売りも視野に

米 SONICblue は、財務アドバイザー、Houlihan Lokey Howard & Zukin のアドバイスにより、戦略的選択肢として同社の全部または一部の部門／資産の売却先、あるいは新しい投資家や戦略パートナーを探すことを検討していると発表した。

これは同社の抱える多額の負債を圧縮し、バランスシートを改善するためのオプションとして検討されており、取締役会もこれを承認している。

（1/18）

J-COM、2002 年 12 月末のブロードバンド加入数は 50 万世帯に

ジュピターテレコム（J-COM Broadband）は、運営するケーブルテレビ局（2002 年 12 月末現在 J-COM Broadband 局 18 社）の総加入世帯数（複数のサービスに加入している世帯については 1 世帯と数えた世帯数）が 2002 年 12 月末現在で 159 万 800 世帯に達したと発表した。

2001 年 12 月末実績に比べ、30 万世帯（23.2%増）の伸びとなっている。内訳は、ケーブルテレビ加入世帯数が 142 万 2800 世帯、前年同時期と比べ 23 万 1200 世帯（19.4%増）の増加、電話の加入世帯数は 34 万 9900 世帯、同 18 万 3600 世帯（110.4%）の増加、高速インターネットについては 50 万 4500 世帯、同 18 万 3800 世帯（57.3%増）の増加。

エリア内全域で CATV、電話、高速インターネットの 3 サービスを提供している J-COM Broadband 東京と J-COM Broadband 関東のパッケージ（料金割引サービス）加入については、この 1 年間で 2 サービス以上に同時に加入している世帯数の割合が増加しており、1 本のケーブルで、高品質でかつ複数のサービスを同時に提供できる CATV 事業の価値の高さがユーザーに受け入れられているとしている。

（1/17）

クリエイティブ、「NOMAD Zen」に USB2.0 モデルと 40G バイトモデルを追加

クリエイティブメディアは、HDD を内蔵した音楽プレーヤー「Creative NOMAD」シリーズに USB2.0 対応「Creative NOMAD Jukebox Zen 20GB USB 2.0」と大容量モデル「Creative NOMAD Jukebox Zen 40GB」を追加、2003 年 1 月下旬より発売すると発表した。

「Creative NOMAD Jukebox Zen 20GB USB 2.0（型番：CNJBZ20U）」は 20GB の大容量ハードディスクドライブを搭載、MP3、WAV、WMA の各形式の再生に対応。次世代シリアルインターフェース規格の USB 2.0 インターフェースを備え、音楽やデータを現行の USB1.1 の 10 倍高速に転送することが可能となっている。

「Creative NOMAD Jukebox Zen 40GB（型番：CNJBZ40F）」は 40GB の大容量ハードディスクドライブを搭載、MP3、WAV、WMA の各形式の再生に対応。USB1.1 および IEEE1394 による高速データ転送が可能。ボディーにはアルミ合金を採用、携帯用のキャリングポーチも付属する。

基本的なスペックは既存モデルと変更なし。価格はいずれもオープン。

（1/17）

東芝とアルパイン、車載情報機器事業会社を設立

東芝とアルパインは、車載情報機器の商品企画、研究開発、製造、販売、アフターサービスを行う合弁会社「東芝アルパイン・オートモティブテクノロジー株式会社」を、2003 年 1 月 16 日付けで設立すると発表した。

新会社は、放送網、通信網といった車外のネットワークと、カーナビゲーションシステ

ムやカーオーディオなどの車載機器、携帯電話や PDA などで構成される車内のネットワークを結ぶ役割を果たす「車載通信ゲートウェイシステム」等を開発し、販売する。

カーナビゲーションシステム、カーPC といったハードウェアだけでなく、テレマティクス・サービス、車載デジタル放送といったサービスの提供や受けたサービスの活用までを含めた、自動車向け情報サービス全般を In-Car Computing とし、自動車を新たな IT 空間へと進化させるとしている。

（1/15）

12 月末の DSL 加入者数は 560 万強

総務省から 2002 年 12 月末時点の DSL 加入者数の速報が発表された。それによると加入者数は 5,645,728 で、これは前月末の 10.3%増。増加率は前月から増減なし。

内訳を見ると NTT 東西のフレッツ ADSL での加入者が 2,136,272 で初めて 200 万を越えた。他事業者経由の DSL 加入者が残りの 3,509,456 で、NTT 東西のフレッツ ADSL のシェアは 37.8%と前月から 0.4%のマイナス。

（1/14）

KDDI など、自動車向け無線技術のハンドオーバー実験に成功

KDDI、KDDI 研究所、トヨタ自動車、NTT データ、日本電気および日立製作所の 6 社は、道路上に配置された DSRC システムを用いて、DSRC を用いた連続通信の技術を検証したと発表した。

DSRC（Dedicated Short Range Communications：狭域通信システム）は、5.8GHz 帯を用いた路側-車両間のスポット型無線通信システム。すでに ETC（料金自動収受）システムに利用されている。

今回の実験は、DSRC を用いて連続的な通信エリアを確保する技術や DSRC が不連続の場合においてもアプリケーションが途切れることなく利用できる技術等を確立しようとするもの。

実験車両を用いた DSRC 連続ハンドオーバーによるストリーム画像の受信や、高信頼 QoS 制御技術を用いた優先メッセージの通知・認証、セキュリティ技術を用いた決済・旅行予約などの検証に成功したとしている。

（1/11）

有線ブロード、月間の取り付け数が 5,000 回線を突破

有線ブロードネットワークスは、ブロードバンド事業（FTTH ブロードバンドインターネットサービス）について、2002 年 12 月末時点の進捗状況を発表した。

これによると、工事日が確定している契約者数が 63,462 件、回線が開通している取り付け数が 37,837 件となった。

これらの数字を 11 月末時点のものと比べると、契約者数で約 10,000 件、取り付け数で 5,100 件を越える増加となっている。

（1/11）

米 Intel、米 Microsoft と携帯プレーヤーのリファレンスデザインを共同で開発

米 Intel は、米 Microsoft の新しいソフトウェアプラットフォーム「Media2Go」向けに携帯メディアプレーヤーのリファレンスデザインを共同で開発すると発表した。

Media2Go は「Windows CE .NET」ベースのマルチメディア・プラットフォーム。上着のポケットに入るほどの大きさの持ち運び可能な機器で、動画／静止画や音楽の再生を可能とする。

Intel は、H.264/MPEG 4 Part 10 ビデオ・コーデックなど高性能ビデオ・ソフトウエア、USB 2.0 の実装、バッテリ運用時間を伸ばすためのハード・ディスク・キャッシュ・アルゴリズムなど関連技術の開発を進めていた。

すでに、韓国の Samsung Electronics と米 ViewSonic が「Intel XScale」技術をベースとする携帯型メディアプレーヤーの開発を表明している。製品の発売時期や価格は未定。

（1/11）

米 Macrovision、組み込み Linux 向け DRM 開発で MontaVista と提携

米 Macrovision、MontaVista Software と協力の下、Linux 搭載家電機器向けの著作権保護技術（DRM）を開発すると発表した。

Macrovision は既に、MontaVista Linux 用にデジタル著作権管理ツール「MacroSafe」を開発しており、両社はこれを基に機能を絞った組み込み用 Linux を搭載したデバイス用のバージョン開発に共同で取り組む。

MacroSafe は、PC を含む STB、PDA、ポータブルデバイスでビデオやオーディオ、画像などマルチメディアアプリケーションをセキュアに配信することを可能にするマルチレイヤーのソフトウェアソリューション。

Venture Development Corporation の市場レポートでは、Linux は家電市場で 2006 年までに年率 49%、1 億 4960 万ドルに成長するとしている。

（1/11）

Wi-Fi Alliance、ホットスポットの統一ロゴを発表

無線 LAN 標準化団体の Wi-Fi Alliance は、公共のホットスポットサービスのためのブランドとロゴを中心とした新プログラムの立ち上げを発表した。

Wi-Fi 無線 LAN のパブリックアクセスサービスが提供されている場所を「Wi-Fi ZONE」と呼び、この名称とロゴを普及させていく。

世界各国で通用するブランドを築くことで、ユーザーが接続可能場所を簡単に発見できるようにするとしている。

（1/10）

ソニー、「メモリースティック（メモリーセレクト機能付き）」を発売

ソニーマーケティングは、1 枚に 128MB のフラッシュメモリーを 2 枚搭載し、記録容量 256MB の高容量化を実現した、新開発「メモ

リースティック（メモリーセレクト機能付き）」『MSA-128S2』（記録容量 256MB 相当）を発売すると発表した。

『MSA-128S2』は、現行の 128MB フラッシュメモリーを２枚搭載しており、従来機器や将来発売される様々な機器で幅広く活用できると同時に、合計で 256MB の高容量化に対応している。

本体背面にある外部スイッチを切り替えて使用することで、搭載した 2 つのメモリーを使い分け、画像やパソコンデータなどの様々なコンテンツの整理・仕分けを簡単に行うことができる。

発売は 2003 年 3 月 21 日。価格はオープン。
（1/10）

ソニー、「メモリースティック PRO」3 モデルを発売

ソニーマーケティングは、高画質動画の記録・再生にも対応可能な高容量・高速書込みを実現した、新世代メモリースティック「メモリースティック PRO」『MSX-1G』（記録容量 1GB）『MSX-512』（同 512MB）『MSX-256』（同 256MB）を発売すると発表した。

「メモリースティック PRO」は、新開発の高密度積層構造の採用により、現行のメモリースティックと同じ外形寸法のまま、大幅な高容量化を実現。規格としては最大 32GB の記録容量を規定している。

高画質動画などの大容量データの記録に適した設計とするため、「メモリースティック PRO」には、実際にメモリーとして利用できるユーザー領域に加え、システムファイル領域を設けている。

このシステムファイル領域を活用し、動画記録中に一定間隔で管理データを記録することで、記録中のメディアの取り出しや突然の電源切れなどが発生した場合でも、記録データの喪失を最低限におさえることが可能。また、この領域には著作権保護技術「マジックゲート」と、将来の拡張性を実現する為の機能を搭載している。

拡張機能としては、他人によるデータ閲覧や利用を防止する為のアクセス権を設定する「アクセスコントロール機能（仮称）」などが想定されている。

現行のシリアル転送に加え、複数のビット情報を同時に送受信可能なパラレル転送が可能。最高転送速度（理論値）が 160Mbps（20MB/秒）と、従来のメモリースティックの約 8 倍の高速化を実現。また、規格として最低書き込み速度を 15Mbps と定めており、対応機器により DVD 並の高画質動画のリアルタイム記録や再生などに利用できる。

発売は 2003 年 3 月 21 日。価格はいずれもオープン。
（1/10）

サンディスクとソニー、新世代メモリースティック規格「メモリースティック PRO」を開発

サンディスクとソニーは、高容量、高速転送、高度なセキュリティなどを可能にし、ブロードバンド時代の新しいアプリケーションに対応する新世代メモリースティック規格「メモリースティック PRO」を共同開発したと発表した。

「メモリースティック PRO」は、最大 32GB（ギガバイト）の記録容量を規定するとともに、最高転送速度（理論値）も 160Mbps に高速化。さらに、規格として最低書き込み速度 15Mbps を定め、DVD 品質の高画質動画をデータの欠落などを起こさず高品位に記録することが可能となっている。

合わせて、動画記録中のメディアの取り出しや突然の電源切れなどが発生した場合、それまでに記録されたデータの消失を防ぐといった新機能を実現することも可能になり、より高い信頼性の確保もなされている。

加えて「メモリースティック PRO」は、著作権保護技術「マジックゲート」を標準装備。さらに、メディアに内蔵されたインテリジェント・コントローラーを活用することで、記録されたデータに対するアクセスを制御し、他人によるデータ閲覧や利用などを防止する「アクセスコントロール機能（仮称）」が可能となっている。

外形寸法は、現行メモリースティックと同じ 21.5 × 50 × 2.8 mm。接続端子も同じく 10 ピンとなっている。

また、ソニーは、新しいコンセプトのメモリースティックとして「メモリースティック（メモリーセレクト機能付）」も発表した。

「メモリースティック（メモリーセレクト機能付）」は、機器間の高い互換性を確保できる基本容量単位 128MB メモリーを複数搭載し、外部スイッチによって使用メモリーの選択をすることで、互換性をもって様々な対応機器での利用を可能にするとともに、メモリーの使い分けによるコンテンツ整理やデータ仕分けなどの新しい使い勝手を簡単に実現できる。

2003 年春より 256MB 相当（128MB メモリーを 2 枚搭載）からの発売を開始、更なる高容量化に関しては 512MB 相当（同、4 枚）以上の開発も進める予定としている。
（1/10）

米 Real、汎用フォーマット対応の著作権保護技術「Helix DRM」を発表

米 RealNetworks は、ラスベガスで開催されている「Consumer Electronics Show」（CES）で、Real 形式だけでなく MPEG-4 や MP3 といった汎用フォーマットにも対応したデジタル著作権保護技術（DRM）「Helix DRM」のβ版を発表した。

「Helix DRM」は、PC や家庭用機器、携帯デバイスなどにコンテンツを配信する上で、ファイル形式を問わずに著作権が保護できる技術。

コンテンツに暗号化をする「Helix DRM Packager」、コンテンツごとにライセンスを管理し発行する「Helix DRM License Server」、著作権保護をかけたコンテンツをクライアント側で受け取り再生することができるようにする「Helix DRM Client」、Helix Universal Server に DRM 配信の仕組みを追加するプラグイン「Helix Universal Server DRM Plug-in」から構成される。

対応しているフォーマットは、Real Audio、

Real Video、MPEG-4、MP3、H.263、AAC、Narrowband AMR。今回発表されたβ版では Real 形式と MP3 にしか対応していないが、2003 年第 2 四半期に公開予定の最終リリースには上記フォーマットが追加される予定。

さらに、Helix DRM は他のどんなメディアフォーマットでもサポートするように拡張できるとしている。

また「Helix DRM」は、動画配信事業者として Movielink が、音楽配信事業者として MusicNet、EMI Recorded Music が、さらにポータブルプレーヤー業界から SD Association がサポートを表明している。

RealNetworks では、Helix Community を通じて CE メーカーが Helix DRM 互換デバイスを開発できるように支援し、Helix DRM client のバイナリバージョンを提供するとしている。

（1/10）

米 Microsoft、HighM.A.T.のサポート拡充を発表

米 Microsoft は、ラスベガスで開催の Consumer Electronics Show（CES）にて、同社の「High-performance Media Access Technology」（HighMAT）が新たに 11 社のサポートを得たと発表した。

「HighM.A.T.」は、ユーザーが写真、音楽、映像などデジタルコンテンツを CD に保存する場合、データを読み取る規格に一貫性がなく複数の規格が存在することを解決しようとする新たな規格。2002 年 10 月に松下電器産業と共同で発表していた。

新たに HighMAT をサポートする企業はデバイスメーカーとして Apex Digital、日本ビクター、松下寿電子工業、コンテンツ制作ソフトウェアデベロッパーとして Ahead Software、Aplix、B.H.A.、ECI、Pinnacle Systems、Sonic Solutions、半導体メーカとして Equator Technologies、ESS Technology。

また、松下は HighM.A.T.に対応した AV 製品 7 モデルを発表した。

（1/10）

「Yahoo! BB」会員、170 万人へ

ソフトバンクは、全額出資子会社ソフトバンク BB がヤフーと共同で提供しているブロードバンド総合サービス「Yahoo! BB」の進捗状況を発表した。

それによると、2002 年 12 月末で Yahoo! BB 会員は 169 万 1000 人、前月比で 23 万人の増加。また、Yahoo! BB と同時に提供される IP 電話「BB フォン」の利用登録者数は 129 万 4000 人。

なお、12 月は年末年始休暇により、前月（2002 年 11 月）より工事稼動日が少ないものの順調に増加したとしている。

（1/9）

富士フイルム、256MB の「xD-Picture Card」を発表

富士写真フイルムは、超小型のデジタルカメラ用記録メディア「xD-Picture Card」256MB を 2003 年 1 月 30 日より発売すると発表した。

「xD ピクチャーカード」は、2002 年 7 月に富士写真フイルムとオリンパスが発表した、超小型サイズ（20.0mm×25.0mm×1.7mm）の新しい記録メディア。

今後、順次 512MB、1〜8GB を発売予定としている。

（1/9）

EMD Magazine　第 29 号
発行　2003 年 2 月 16 日
発行所　音楽配信関連情報サービス
責任編集　宮腰 温
レイアウト　株式会社アイビルダーズ